

と きにゆつどうとのこへんじ
富木入道殿御返事

このころ

げじゆん

そうしゆう

げちやく

ふたつき

しきり

てんべん

おなじ

此比は十一月下旬なれば、相州鎌倉に候し時の思には、四節の転変は万国皆同か

るべしと存候し処に、此北国佐渡国に下著候て後、二月は寒風頻に吹て、霜雪更に降

ざる時はあれども、日の光をば見るることなし。八寒を感ニ現身ニ。人の心は同ニ禽獸ニ不知

ニ主師親ヲ。何況 仏法の邪正師の善悪は思もよらざるをや。此等は且置レ之。

去 十月十日に付られ候し入道、寺泊より還し候し時、書ニ遺 法門一候き。推量 候ら

む。已に眼前也。仏滅後二百余年に月氏・漢土・日本・一閻浮提の内に天親龍 樹

内鑑冷然、外適時宜云云。天台伝教は粗 釈し給へども弘ニ残 之ニ一 大事の秘法を

此国に初て弘レ之。日蓮豈非ニ其人ニ乎。

前相已に顕れぬ。去 正嘉之大地震前代未聞の大瑞也。神世十二、人王九十代、仏滅後

二千二百余年未曾有の大瑞也。

神力品 云 於ニ仏滅度後ニ能持ニ是経ニ故 諸仏皆歡喜 現ニ無量神力ニ等云云。如来一切所

有之法云云。

ただし

但此大法弘まり給ならば爾前迹門の經教は一分も益なかるべし。伝教大師云日出星隱ひいてかくル

云云。遵じゆんしきノニクノハじめてラスヲ初照レ西等云云。

法已に踰れぬ。前相先代に超過せり。日蓮ほぼかんがフルニ粗勸レ之是時の然らしむる故也。

經云有リニ四導師一名ヲニナすケ上行トニ云云。又云惡世末法まつほうノ時能持クニ是經タもたノ者。又云若接もしとつテニ須弥ヲ

擲なケ置おカンモニ他方云云。

又貴辺に申付し一切經の要文智論の要文五帖じよう一処に可レ被ベク取集とらあつメ候。其外論釈の要文散

在あるべからず候。又小しょうそつ僧達談義あるべしと仰おうらるべく候。

流罪の事痛いたくなげ歎かせ給ふべからず。勸持品云不輕品云。命有ありレ限不べ可カレ惜おしむ。遂つい可ニレ願ベキハねがウ

者ぶつこく仏国也云云。

文永八年十一月二十三日

日蓮 花押

富木入道殿御返事

小僧達しょうそつ少かえシ還候。此国ノ為レ体在所之有様、可ベク有アルニ御問おんとい候。難かたクレ載セニ筆端ひつたん候。